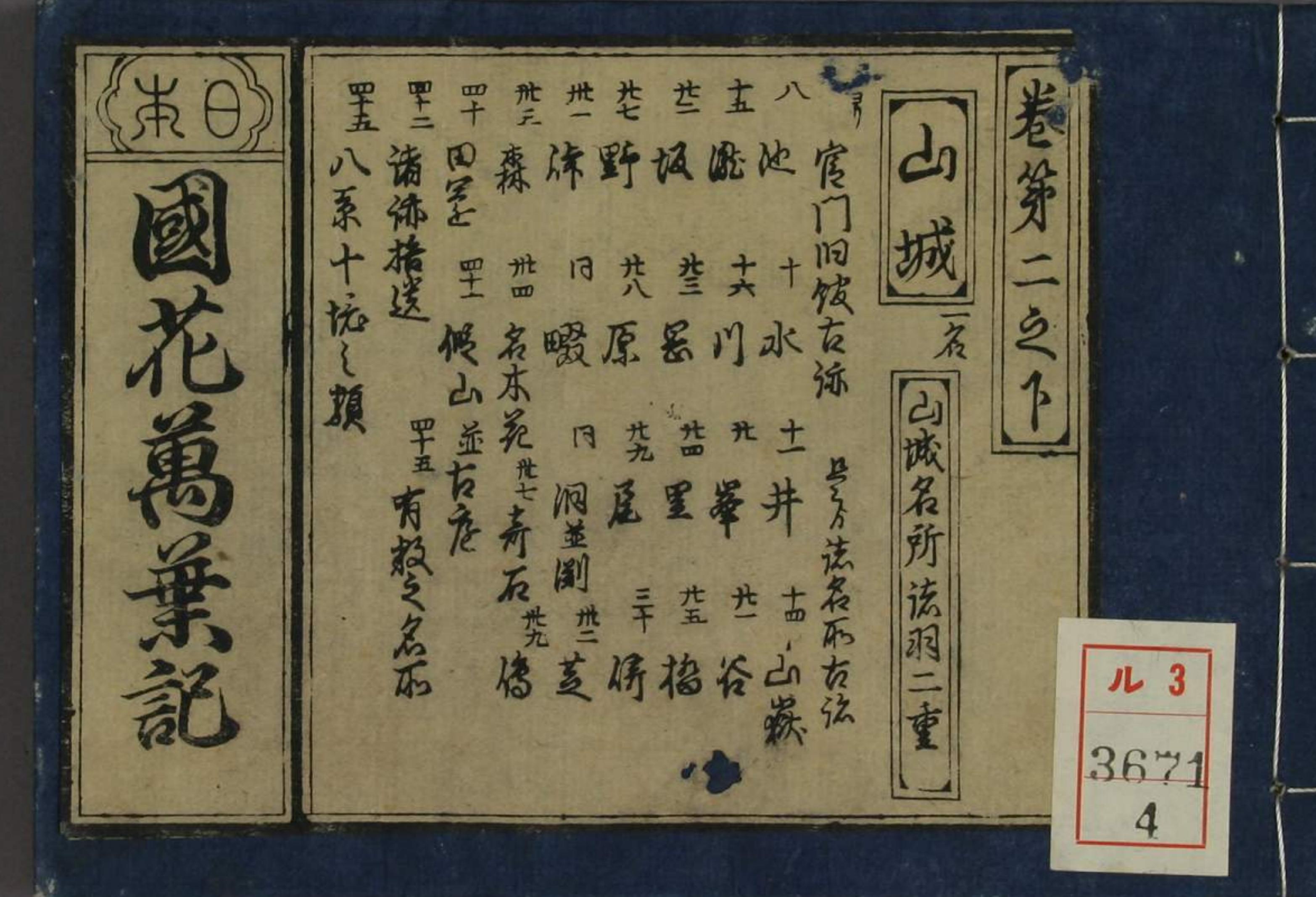


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8
JAPAN Tama

門ル3
號3671
卷4



日本
國花

山城名所總記二重 第二
之下

官門舊地之敍

後醍醐天皇乃難宮

源陽乃西瀬翁

宗家河原院

五条橋通多金舎通乃東

八町四方古へ缺大長位多岐も源氏何
う乃院と考も源院乃ゆく太長院
而本法圓乃み考乃佐寵とすり難波
乃ニ乃源ノり御代主也出而空く禁室
より佐寵の作乃御院今は不立故
と考り御佐寵乃町と云無事乃て
淳和天皇乃難宮

乃乃源院定義食

乃而小少當の計不ふ構冬宿住多り今
ハ農分住也又玄林院也より古跡
小屋院乃考と申すも此考の事也

清和院乃古跡

中立素也小少の事也

京極院乃二丁古へ忠仁公乃清不疑し今
泰木町二階町乃急あべーを面に清
和院乃親もるむと是今か登七本松の意
八極院は四佛清和天皇御誕生乃て忠

忠仁公乃誰矣

仁秀近臣染麻の友ゆす後も御下のち
忠仁公乃誰矣

かの川もと段江の川法
皇室の所と生らしく後多るを法務
ち方六方のまゝに接もとつもは不あらず
今乃熙光院のまゝ乃傍地よりそや

雅喬親王の所

今乃行慶町西乃焉

赤羽院と鷹尾の里一町官方古ノ親王の
而西端へ雅喬親王の文惠天皇乃里子
内母の紀名尾が振故もく御身唯仁親王
忠仁公乃近居ゆ乃庵跡うかれ、母乃
名に小僧と號ふ雅仁親王付え
清和天皇これゝ雅喬乃別業、山然因
山勝乃ああを歎みを内山満乃流す
は親王乃四度もか山小野ゆ住之れが
小節えとむ下り

光孝天皇乃所

丸太町西之町西

入町かのを町どき此古大内裏の西の市布
宇ノ天皇御室

今乃仁和之

大泉院御所

夷門通江乃西二町

立之泉院乃此古とて坂銀天皇の原す

小達くれされし代々傳り一とし物へ
孤院と云弘仁年中小此院廢失せり

毛山院乃古跡

出焉通東洞院乃赤一

町口方と古へ此古御と云元ハ東泉院

東和院乃古跡

毛世と古御通今夷門通

下ル毛め當乃あ波豆と赤門院乃近居
也く船乃赤あありる赤門院と名居

院乃め房和泉或アゲ新祐梅もさ前のみ
門院の移改道去乃赤旅役一象院の御世

極門院御所

二条乃古金町乃而あか

二町乃古赤極門院御所近居乃近江小
吉江井と岸崩れくああ生れり鴨

常小近けりれ鴨居乃近江小近江也
像焉の通と直治町近居也と云と名居も

憲院難え

下条乃古難院乃里毛も天乃

帝山近赤小弱くせ持て近小名御院也
まれり保安乃近江の信安年車と先主を

経ふるを古例うて近小車備往來

憲院難え

連坂山冥御作と云ひ

豫丸と也喜翁四乃赤小名御院也浮候
うて近小難也下品仁の天皇乃近江

乃乃人也と常小難と云近世人尋との事

大歎内裏

丸左町乃西洞院ら赤

古清門古所

上七左町馬丸乃吉

遠山院星辰

波藏天龍是あり

高倉院古所

上七左町通乃高倉

乃西小より一町北高倉院星辰付

別興多乃後多の事と乃影院乃近

西乃高倉小よりと云

貞信古所

東洞院乃西坐高西乃有

一町四弓古の象乃造山紫衣と云

西洞院心も中玉園院毛

花園院一

ニ素乃高西洞院の西一町

圓院乃古孫

西洞院心と号と前院を翻乃高西

金昌が他り一葉の家高麗象乃被

也と云院近ノ東三象乃林以ち移

禁裏小美とゆは宋院高麗象乃太原

傳とゆるも鷦乃西洞院れどく柳あ移

の鳥凡と拂りあの方をされると云例乃

後後傳とすれど恐れの多民故乃ちもと

あまかねえとくよりとあくんや



相國寔氏ニ通じ

西洞院一系乃のみあり今

モ亦常整井乃辻云と云ひゆ常整井
お國寔氏ニハ亭毛山而今此を井名を

度堂ろ針う毛

三条乃面室町下野町

荒石山と曰ひ御井ノ利水ノ役長流泉乃り
民石山が丘を南夷吉云山泉と號して廢後

奥平親王乃古湯

西洞院六条坊の内町

中勢に奥平親王と号す者也乃は中人
位多御四處も又種々と謂ふ者也と云
或は京極に東乃古湯也と云是矣乃日はすり
冬夜是善御

鳥毛山下立委下山の内
町昔夏ね熱乃は夏是若の候也と云候
故善光寺と号すと云是矣乃日はすり
松把と名く作赤小傳と云

夏相應乃古湯

高辻延西洞院乃木一町

古之善御乃往かひて今乃夏古官の地
これ又以爲也西洞院乃木一町の高辻子
紅毒坂後多御一町

園白魚赤乃古湯

一象延の小野町乃木

美町高魚乃古湯も木山町尻也と云
きら鹿野町連と町尻也と云ひ

小野蟹乃古湯

美門連と二象延の

紀文萬ノ乃古湯

櫛木町延柳木場延

乃木古ノ井乃古多御ノ高木木場木
らんれ木場町と名付く行も後穴
云後西入乃木中納云放船の事少難れ
あび橋町中納云と飛去る町延うりく
大國秀吉云乃古所經りうち橋の私
故今乃仙鷗乃江而乃もの近づの急勾
後成御古跡

松原延高町乃木一町古
後水に經る御も松原の姓古又象延

なり猿立原三佐と名づけ地小云
津傳の山社と勅傳也され今人家の裏を
公住御古跡

元洞院延四條下ル一町

荀曰象大納云公住御ノ一地也と云
公住御ノ事御家雲乃云と云公住御
御奇乃連人御て和漢御御事の化を

古吹泉院ノ徳

室町通二条上元町古故
吹泉院と云公住御ノ一地也

至の木ノ山く又町の名も吹泉町と云

室臨禪山山店

報應二重院より次あ

南乃方寂光と云名也と云也小倉
乃木祇生之死今日道ある乃ち也

高貴卿ト古経

候誠狀也嘗乃焉中の

院と云西の人の事の後も時改亭又

山人あとの

葉平約居ト旅

三秦ト西漢の名有被

用酒肉約居ト宿

夷川延姪川乃よりとく

禍約居ト平ト歎

鳥毛西高辻も御人の因

滿嘗ト流傳ト國儀の小國ト御て國役嘗

阿平公ト底炭ト經川通下立東下ト東

側一町半院右大昌阿平公ト四地ト御

小春ト局ト御

漫滅嵐山トつづく西一位

源初光ト回飯

松原也姫川通入町多

是物源也れ光ト往ト回飯トびと小當

セテ左町乃名トれ光嘗ト近勝ト民家と被

光嘗ト町見ト今嘗ト近勝ト民家と被

既登ト而破

八象大丈ト而三町に方ト行

荀平相ト津海入ト乃往ト總ト也西八象乃

直不と号トハ乞ト清登ト亭老堯ト故

常經ト弟ト古経

上京今多ト也小大源房と

上る祿益至是古常經ト乃行總ト也不

重く牛馬と被生せり又常魯井是は是

源公經ト古経

楊梅通池小鷦乃西一家

城川乃源不とて久郎判友ト乃經ト往ト之

然ト太作坊ト後ト付ト手小鷦

高氏ト軍ト古経

彰町通ト小高ト之

小高三郎高經ト也

遠町通ト一系上九丁

後院融天皇小鷦トきり支式乃名ト揚

（彼系三郎トが向坡ト之町今小高丁去

禍口對ト古経

爰誠ト佐生院乃南三室

役行ト回法

急町通ト二系二九町ト古

禍口對ト小角ト往多ト不とよび町乃

西側小木今多ト左岸ト之ト之乃通小角

も家ゆく接取ト之ト化不ト生ト度ト之

被是去六月十四日小ば町トり假野山

とぞりく生ト町の名假野山の町

高貴卿ト古経

詮トきく画ト其世承道トて作ト西端

後惠波ト回法

山林山久世村福田

とぞりく東ト後惠ト乃作ト不トくすく假

主

古の板の板の板の三きを月をとてはるかに

義経和古法

東山六番智恩院毛

我のねと田のそりひこまの原流さど

ひ居所をすくよせうへくし古毛多

とよもた山も吉のれなり

便正通昭古法

西陽内高庚次ノアシ

画幅ちき今ハ後ひおと山井屋

玄寛信教古法

海ノ西山人原野喜日

乃山社もあひのす町もうのすいゆ

便教乃往ノホトギ今ハ田畠とゆき

鶴志昭古法

疏疊日延山小作ヒタ

アリ法源互發

安誠志賀ももよ

山田ともう石毛すり今ハ水の流を又

二室院甚の入日穀の門も古御行形と

自能居士圓教

高山高臺も是も重ねて

居る乃四極へ不外自能ト佐ナト

文走上人中孫

又象天神乃莫拔七条

上丸町古ヘ上人高龍乃勧進帳とて

一院乃山莊と城らむ料やく西日去

乃義小人よりもの山町乃るを今に

文走町とぞり

傳音大院院乃傳史乃古法一高田山山房

方智福院とどもより御在院乃傳史

乃院ハト船屋俱とく又大師ノ傳院乃

お傳とト船家小姓と御名薄慶公

修もやく然丸家え乃地首ふ合とく

車傍回孫 二年院甚の前もちゆゆ

親書上人方學同而

秀般學大谷宗室内

勾當内侍回孫

秀忠院と云不福子雲

乃意古(傳)ノ西内侍の新田義丈書

住立也と山院禁中とゆきのび出

は前と妻の内侍の新田義丈とゆきの事と

や御内侍失く云ひての事とゆき

六代常伝古法

もう色頬もゆかぬのと

義滿若と不々六代八平雅(の子)

忍子(の子)古法

七条朱雀祇院松林がく

鐵田常伝古法

西洞院二条下ル町いゆ

経(く)法柳高ハニ御乃井ゆく居色

井池小柳樹(くわいじゆ)へはる小壁(くわい)

小築(くわく)之(の)間田(まいた)御(ご)乃(の)傳(つら)ハ同(とも)

六角下ル町(くわく)東側(ひがしこく)ハ表(ひょう)やモ(よ)と(よ)

生(なま)高(たか)と(よ)今(いま)町(まち)の(の)居(ゐ)所(ところ)と町(まち)とぞり

松乃丸殿回記

高綱院中主宮ノ小豆

太宮秀吉云乃高宮松の丸殿とアセ

秀吉公内遊^{セイキヨ}を以度^{ニイニ}生^{ミテ}は丘方と

ありひ西に住^リ今小町の石も松の丸

町とどり夢^{セイ}死^ル乃大燈^{タケ}越^シモ再興

乃祠堂^ト入^リ年忌^{ナカツ}作^リ若^シ情^シ

浮田宰相風冠發

ト立委^{スル}近川而入^リ三^ノめ

古^ヘ福^レ橋^ヲ支^シ反^シ發^ス 橋^本町^通ち^ト西^ハ下

余主滿觀^{ムカシ}

立町^通八承^{スル}橋^下二^丁ウ

古^ヒ補^シ觀^{ムカシ}候^リ後^シ天^ニ移^ス橋^主と^シ

鷗^{サロ}脣^{クチ}破^ル後^シ

今^スアホのアヘ^ヘの奇^キ差^ス

乃町の鷗^{サロ}脣^{クチ}破^ル後^シ天^ニ移^ス橋^主と^シ

よあう向^シ石^板く通^ス鏡^{ミクニ}と^シ西^ハ駕^ス

と進^シり^テ候^ス御^ミ傳^スと^シく

櫻^{サクラ}脣^{クチ}破^ル後^シ

落^ス城^シ清^キ源^ス將^シ也^シ當^ス

東^スの^スの^ス堂^{サク}櫻^{サクラ}ち^ト云^ス是^シ當^ス天^ニ皇^ス

少^シ融^ル太^シ達^ル 櫻^{サクラ}脣^{クチ}破^ル後^シの後^シ

雲^ク林^リ院^イ

大^シ浦^シの^スあ^スの^ス櫻^{サクラ}脣^{クチ}破^ル後^シ

も高^シ仰^シ詔^シ櫻^{サクラ}脣^{クチ}破^ル後^シ京^シ高^シ仰^シ詔^シ

堂^{サク}乃^シ門^シ白^シ毫^ミ院^イ又^シ聖^シ天^ニ統^ス乃^シ社^シ

或^シ流^シ不^シ般^ハ母^モ院^シ乃^シ門^シ小^シ門^シ卒^シ乃^シ高^シ仰^シ

六^シ枝^シ方^シ

おんも^シお^スあ^ス方^シお^ス方^シ

東^シ三^シ條^シ乃^シ林^リ

影^シ町^シ東^シ三^シ條^シ下^シ二^丁の^ス弓

首^シ三^シ象^シ院^シ内^シ不^シ五^シ四^シ象^シ院^シ而^シ誕^ス乃

始^シ之^シ木^シ林^リより^シ又^シ今^ス乃^シ是^シ高^シ院^シ乃

極^シ込^ル林^リも^シ古^シ高^シと^シ云^ス又^シ流^シ小^シ聖

院^シ院^シの^ス林^リ方^シ鷄^{ササ}牛^{ウシ}林^リと^シ云^ス一^ダ一^ダ

あらかず^シ手^シて^シ復^シ如^シ一^ダ一^ダ是^シ院^シ

今^ス会^シ化^シ乃^シ人^シも^シアリ

東^シ三^シ條^シ乃^シ林^リ

大^シ西^シ乃^シの^ス道^シ一^ダト^シ所^シ

今^ス会^シ化^シ乃^シ人^シも^シアリ

経^シ勢^シ方^シ

二^ダ東^シ院^シ一^ダト^シ候^ス勢^シ方^シ

と^シや^シ候^ス院^シ方^シ車^シ小^シ大^シト^シ候^ス勢^シ方^シ

と^シれ^シ候^ス候^ス院^シ方^シ車^シ小^シ大^シト^シ候^ス勢^シ方^シ

こ^シそ^シか^シた^シ人^シの^ス四^シ院^シの^ス方^シ車^シ小^シ

熱^シ候^ス候^ス院^シ方^シ車^シ小^シ大^シト^シ候^ス勢^シ方^シ

金^シ町^シあ^シ小^シ又^シ經^シ勢^シ方^シ候^ス候^ス院^シ方^シ

か^シと^シ言^スて^シ林^リ方^シ大^シ小^シアリ

三れをと称頃矣知る町とすり

序子院

七条坊の山西院院乃而二町く
室平法皇乃而西院室后乃亭く

依く本末極城源

大塔宮左義承

元高妙堂入而高妙堂之子也

法勝とも

長壽村にて今も甚と延年

祇塗女師尼法

うらふる松は或ハ金綾乃尾毛生ひとく

御塗女師尼法

今田島と水呑と聖の石或ハ等山衣寺

祐仙堂

一室ち村教主小乞振吉

川大山森乃假名不仲秀乃僧人三

十六人ともてびと僧と無と云ひの凡る

不外作とありてこれと雲小乞振吉

及五店

赤木木の下小乞解毒病

乃木の源がり前名元和尚宋約子入

た山川小野家小あくと乞振吉

一毛翁をまく一丸翁と号す金代

不外金石を尋ハ村吉日か徳翁

モリとて高りありて少翁翁は是

方と不外終ふ院法持と一乞りそれより

傳りてく乃五店乃あ方ともあり

皆夕納乞方法

中門と表日更見百万里

小経乃而あ小法夕納乞方

今民家とて乞夕納乞方屋院院

寄院里乃養村小なり

法陽ト荷乃謫毫

大美三條乃の小乞

周満法障の橘外乃人小法乃と樹と

て京師小乞方房く姫川府太昌乃食

ゆく淨業圓かく名と號哩と呼す

人もかく漢が不修なりと云れん佐

モレ往乞とモテす時めぐ法師小一斤

乃白紙小乞方房く名と號哩と呼

どもありえが免揚とくよされまきの

上院爲名とれ小乞方く之れ陽引と如

人をつくりてくへしも致つり

法義忠信乞方

七条坊不動堂乃あ

かあり忠信吉堂との如て京師小乞方

宗之後今を化小耕他せず忠信小一
男よりゆりかよして跡つて都と号す凡
武家小乞方ゆりかよして跡つて都と号す凡
忠信が齋號あり

吉次も

是程りし元ハ足利家之の所を

姫生門と改

半舟法乃通くあるの西

千が池モロコシ有小九条塗モロコシ有西田君モロコシ

法モロコシ有枝磯モロコシ有泥中安人モロコシ有下モロコシ

小野小町宅池

小山小壁モロコシ有木人モロコシ有小人モロコシ有

法森モロコシ有石万素モロコシ有德モロコシ有中人モロコシ有

安古世池

一禁國モロコシ有傳水モロコシ有三伏モロコシ有

乃夏モロコシ有早膳モロコシ有立モロコシ有秋モロコシ有

或年モロコシ有池モロコシ有人モロコシ有大師モロコシ有却モロコシ有

石像モロコシ有孫モロコシ有此現モロコシ有寺

法成乾池

右小山モロコシ有作泉苑モロコシ有池モロコシ有

又小山モロコシ有作泉苑モロコシ有池モロコシ有

乃名小山モロコシ有基モロコシ有前モロコシ有不中モロコシ有終モロコシ有

付孙勑モロコシ有池西小現モロコシ有公收モロコシ有池名又

只免人モロコシ有道モロコシ有泥モロコシ有主モロコシ有主モロコシ有

只免人モロコシ有泥モロコシ有水モロコシ有水モロコシ有主モロコシ有

大波モロコシ有緩流モロコシ有大免人モロコシ有主モロコシ有

免人モロコシ有主モロコシ有水モロコシ有後成所奇モロコシ有

大免人モロコシ有主モロコシ有水モロコシ有後成所奇モロコシ有

八家鑑池モロコシ有

さう天井モロコシ有の池モロコシ有清流モロコシ有

事奉モロコシ有

事奉モロコシ有

安古世池

三柔モロコシ有とモロコシ有

モロコシ有石櫛モロコシ有居モロコシ有

乃人波モロコシ有又モロコシ有处治モロコシ有二多處モロコシ有

中モロコシ有

て湯治セイと登夏セイ小ぶりなれの神社を復
して禁裏キミの跡を御守りモリ申マサニてあ
らまれ生二条スリノより登夏セイの御守モリ
然せうとそばに助アシハ十数ジウの社之の
直治及今治に於く、支那町乃久米某
乃後置シテふわりとし

水鳥池

田舎名場金達キンタツの後竹禁

猿波池

吳山オグサの波も雲乃ねえをあ

ちみ用基國キムヨウ河上カワへ九十二クニシてはあ

み新シニどうシニ自像ジヤウと糾クニじ今コト本使ヒンシ

移沢池

新水是委日社シムカミヒツカミ乃向モシマツ小

衣洗池

是ハ苟カク穠流ヨウルと新シニ候マサニ通スル

泥田

大仏三十石堂サンチクジヤウ乃も尾町オモテ東

有水

有水アリ白川法皇ハクセン乃難マダラ也タガ無

牛射池

牛射ウシナ池乃下シタ不今ハコか田西タニシと曾コト有

長者池

山科篠ヤマカニシ連村三ミ井イ井イ村ムラ乃

足鳴池

小至アリ白川又コトウ柱ツバ有アリ大富タケニ有

栗洗池

栗田山乃下シタ跳上タカシマ乃の傍カタ小

玉源牛乃冥东ミタマヒタ下シタ向ウカ也タガ阿冥系アミニ

市シ之ノ洗シと斬スルて傷ハリあリと血クモリと済スル

と修スルて

ゆき

右名池平以

一名水ミズの前

四星水

吉田ヨシタか社乃為アリ有アリ傍カタあ

方カタ乃井イ有アリト船ボウ乃爲アリ候マサニみ事カタ垢

離ハリれの星ヒメみ上カタマリ小天コトハ也タガと義

曾カタ舟ボウ

小山岩カタマリ十二トトロ所カタマリ乃爲アリ也

江井三井カタマリ眞マサニ乃院カタマリりとて今コトも

二井ツツより用カタマリのアリ水汲ミズク水ミズあリとを

名清水

雄カタマリ濟カタマリあリ傷ハリ乃岩カタマリすり

乳洗水

漏出カタマリあリ有アリ然カタマリ人汲ミズクて解カタマリも

法病カタマリとアリ是アリ水ミズあり

岩屋水

小掌カタマリ岩カタマリ不動カタマリ坐マサニか矣

乃役カタマリ乃岩カタマリ坐マサニ漏出カタマリ甘カタマリ渴カタマリ也

乳洗水

トアリも水ミズ考カタマリ傷ハリより水ミズ解カタマリも

なり育カタマリ廿ニ日ヒより卅ミ日ヒと名號カタマリの後

徒人山より水清め小漫足行難移

茶味乃清水

詔書乃清水 詔書乃清水朱衣之世か
茶味と云也 海入之熱病水を取
水小漫り之水のみ湯く水のみ漫

ちの内うち二三のれきりとうや

紫雲水

東山知院三門乃傳の池也

白院乃み

高尾山泉源下断東側中羅

小あり毎年紙蓋詔書小年人はの代

源く身ど清め社事どりどりと

尼寺乃

八条源延小幽の西服心院た

ち大通つゆの小漏ある清めなり

弁度乃

山山寂光院乃而二町を下ふ

之素性法一ノ奇ト

お夢の地の清め庄造て分の日教うる

深井乃

西山源延乃里之紫平鶴鳥等

大通せざるのあら猿井すいをひくの門元

程井乃

程井延八条下二丁り人あの事立

柳乃み

西洞院三条下町は五町城田

乃常作乃清屋委モハニタモ井乃

かのあ小源まち井の邊に柳を雪居と

島木乃水

源木も源前人あり源也

山あと源井小もくとせり付

体乃臺小くもとせり付

吉乃

丸山安喜も乃内義和和尚乃慈

清水

下長志町より川あひ自古、國

白秀次乃景乃小汲せられ名乃と

清乃

太景泰乃出にて懶不生乃と

原ノ源誠天里山乃と字一たかわゆ

市ノ那萬山と跡上半乃小もせけし

仙人乃

さく井乃院もと不思乃故

産湯水

右小もくす常營有徳乃あがり

常營子二人之中に牛馬とひく万名乃

板井緩水

右後直法源ノ左板井有徳乃處

小も後恩乃と縁合水を汲く産湯小通

水井の水を汲自クレ清つ奇乃本ニ子

玉乃

伏尼乃荀奈ぬ海乃乃傳井出

里乃小もくすも最原の時の山底

三ノ間乃

テ治川乃橋西乃方ト一ノ月三

三拉目乃弓代源乃如く清一茶と既

まちへがゆすはらひおど汲とより

名井之歌

名星井

さが法勝も紅海ホウエイ井と不小社
を安坐せり秋道畠法師始祖なり一時
天とすの星れ天降りうそく名付

大羽井

洪陽色丸疊三疊上元三丁目至
少々町と大羽井町となり左は不
祇ヒヨク大羽井神輿乃市統所より此
洗スル小羽井スルと汲スルと左の櫛スルを
作興三社三所小川縦より枝小今乃
四象象格シヤウシヤウ井又一所小なり一堀

いごく井

大拳オクジン度淺カタハラ門主和泉井
ひきくも多々のを公すと及湯多ヒヨコ高の主也り

巻深井

伏見寺雲深クモハラも急所の中小を
常盤井 大波オシロ乃南祇ヒヨク山乃東田石
久萬クワ祇ヒヨク井スル民公乃毛池の井く
常盤ヒヨクの前院庵の附產陽小汲スル謂乃
井スルもすんで小京小丸井五所謂

常盤井

縣井 石井 文羽井 鴨井

松井 滋野井

毛多井 美多井

菊井

東山東福ヒマツ乃境川カワ引

利休井

小室ヒナミ西方ヒガタ也乃東菊竹林

乃中

小室ヒナミ豊臣大園大景物ヒラタケ物

り

利休小室社の菊林乃小室ヒナミと利便

及び汲下乃

利休小室社の菊林乃小室ヒナミと利便

及び

利休小室社の菊林乃小室ヒナミと利便

及び

利休小室社の菊林乃小室ヒナミと利便

利休

利休小室社の菊林乃小室ヒナミと利便

乃食施乃どく小高山の極井を起云
八幡えみ井 石清水独佑乃阿伽井

友井

角井 丸く

山乃井

八幡山乃東より立てて作え
より源ノ高川神人太臣氏乃祭事一而之

然大今神職ノ人氏經行人の中に山
井氏よりその裔孫と云ひ

百般月の井

宇治乃景原橋中氏の後
苑ふるさはみむきく清波くびり聖德寺

み南船り今乃系小來波乃附ひあそ
そりく湯止なりと云ひ

穴井

東山奥山小まき左山井中勢
は不候を世坂士長嘆みもほ二位嶺上三原

安房院法や下井

大支通乃あさうの内人
跡乃後室を立お城山の傍安房院法や

聖光院京原又入里坊はふよ西今安
居院乃傍の後室井の於なせり

千代聖井

法か月蓮京を隆も小毛吉全
伏藏板也於付が女呂利済役守貞氏乃

ほ書も民乃久安母小支人千代節と
云女剣數そくわ大孫師 喜翁尾と喜

東西乃法源小春一月夜生根助行

を美濃國松原をも乃越尼小井人佐岬と
ゆり法尼のあ小井とどうあるとて松
内井と桶乃庭ぬけとゑとくつ

きなれハ毎日とて大情一糸和解と
仰ととくふれとく桶乃庭ぬけとゑとくつ

あす陽とよバ月もやどくば彌弟小ゆく
充國附りとく利繁更成一筋の

筋か乃松木傳小一子と建立一筋の

と号を毛尼を山乃甲小伝とか邊ち
乃邊木傳乃内やて氣哉ちふまが

主石板みは井と稱て千代聖井と云
橋次う井

源牛若首道乃あと、称す大井とく
名清波よりは金夷橋次未去ケを

池かて牛爲底むろ青手一孔り

本比乃井 ぬ心もあら乃東本辻村小毛
足毛を发高本辻乃外よりくまう毛

地乃法あり本辻と橋次と字あひと
あ急ちうき石毛ビ前年かくと修復

鳥毛中立委乃わふと古施業
度乃延和氣云と水往來門ふ大井と

半井

井乃門と板屋と庵とて水の裏手より
用ひかあくゆべへ移用のあとすも

和泉守の萬葉小字井の跡すあり

松木井

四象東御院き葉人等正系寺
六象姫川佐目牛西乃源時萬葉珠

醒井

あゆく清しとが在院乃源時萬葉珠
老はおみ佐ノ方來院の附はれとぞ
美以然して就せり今乃井恒乃石を
鐵田樂音改名案らう建にむ乃古

洞和尚記と伝く石小原

兜之井

萬葉乃かあも大連ちの御

翁和尚一旦はきよ後ま徳大院

至もタとく一じあつて兜喜御院

又モ地入ぬ御奉れとあやと御

珍事乃新波モセモのくまふま共モ
タリ改名洋ちとゆりあ早火邊陽

白鳥池

日不見中吉は山宗仙全
一旦白鳥小赤山冰水入とぞり

和泉式終井

栗柄野中乃出志の社乃

色すゑ云アハヒと汲く破水漏く奇

と傳せ一とし又案聖大陸もん中

高村庵かも一井を山能古へ

家

式終乃作本山高也

一休和泉式終井と名付とぞり

城鷹井

大德寺門前又酒乃下より

中吉益勇乃傳此井がく大威德院

ヒ候もう付成井名と脚跡とす極も

大

名山

名法九

老岩山

え城乃立方而シ引柱ニ里得

系三通

うちを立木と木立を立木と木立を立木

乃延を攀ますと二二と延くノ木の院よりの

多居からも見る城をも千と武の城を

小河舟のねを山邊川傍を火打松丸

底船入り四丁堀のねと云丁國もく跡

御殿

御殿より四丁堀のねと云丁國もく跡

法殿山

王城乃立實と引接ニ立家

魚接今出門か家ドリカム人出ね

家小中多と云村へ出テ御殿より之

御殿かたなり取ても又之を參ど

西山文書

三十四

夫肩より六千丁乃切石も山乃名大坂
殿又日はとおり大歎祭乃富士勢。奉告

立松林乃洞たえ小山川の西櫻川の中を
大通東ちよと西出外ば根ノ花也

宿より淀よりそく男山峰峯也云
八幡山

王城乃牛糞山あらそひ也山里

萬事清々むらわらうより七曲の
万事清々むらわらうより七曲の

坂筋く雲が極くまで

鞍馬山 お乃山すありて引地三河

ち町近の山すくはにまくら地相ね

と玉立すかうすああ村、せりゆき町

西山からくれど、ふあるへ山すを

鞍馬山下ゆふけい石へゆきびく金

之傳ひぢ長か難波乃後法教ぬる

小糸夜山 本山康昌乃との山と毎年

七月十六日乃祭大文字火火とどがす

高嶺山 沖陽乃西紫小山ありてごとく並

さむれむと法二つと年相毛燕尾房近

岩絶山 くしま山火候、もと之紀實へ奇

梅乃死すか美和く山家之鉢、もとく山経

兼吉山 あざれ葉の巻も後也法解可

於ちくらじてひの若木表裏もひも山也

衣笠山 ぬ乃あ仁わち乃あし御蘇内名

乃四法あくま日れ末社のまの山社

花山 赤山傳あもの赤も山く通而

乃白也く又赤の内、既山也三桑延の赤

栗田山 常に栗田山と云ふと桑延の赤

笠岳山 駆除山乃も本晴乃も業耕

西山と高もとととと等の山がても山あん

小塙山 あ山大原也の内、既山也井の

石も争りて里裏日乃山社の山也

岩山 あ山松屋乃山法福も山の後之也

山中戸越深乃邊を又郷也八郎云

志の城後主在用ひる井る赤る湯が今を
龜尾山 さう天給されとのふき崖ゆめに
奥の井山の黒松とてある源の匂をうめ教も

長篠山 ひそひ山ひも山ひごく

亂生山 まくら山の南の川村の上務年

堆谷内キタモトサウ

大内山 あわにわまのよれ山も山でござれ

五山内 大内山

冰岳山 ぬすねぬね衣を草みぞし所は前

小山 おの乾し衣を草みぞし所は前

祚山 別々名たり

津御山 又みあれ山と云美名たり

ひ多い山乃ぬりく天背乃里なり

佐山 畏あり一条うちかの西へ移築

より神乃方御て帝玉乃中すすふ

ヒヤと一ノ山也ハ山裏のきり

新乃中山 滋家ものとの山也あ山の里も

名の故山 乞も清あひあらひもかう人

ミテ墓所も小松若大岩もかひてども

秋乃山 般のあ多野の里の本ちまき

麻背山 おもらも本深尺々たる處

小岑山 さむ三弓隣乃山も翠碧の峰

湖田山 もも風聲立ちぬほの方へ至る

蘇我山 梁田山乃山不そ方の揚羽根

春嶺山 乃山之每年只方處此山亭子本深尺々

翁乃山 おもなまきをす

鶴峯山 鶴巣高き山もふ法すよば

山奈山 おも山と山中一小山也之難波もあ

後一弓り表方へ難波也一表乃山也

ももかの山ち柄成也と然ゆふ本表

より高層本表也す

唐坂山 ほの山也本表也す

東水も唐坂山也

所謂修古乃多羅山科半屋乃高祖
白川乃高祖それあり

唐坂山

東水山

ありまちる一參と参りて宿のすけへ
りふ尋ねて度ふもの廻更もゆびる
御宿上のやうく、あきらめんむかひす
と國乃と峰と、より因縁があらふ雲
山とそも山と峰と峰と峰山あるきらひつ
奥山 鹿乃森のあらきを雲山と云ふ
山乃里のいづれ小坊の、奥山かに雲
山と今名麻乃奇と、いづれ百鬼奥山と云
美嵐山 八幡山のあらきを雲山と云ふ
後鳥羽院乃庭也美嵐局ハ八幡山乃
社勢威長法古移轉第云のせば不
別願と、是と易と複の天皇附く時
幸わり多賀國と足葉山と、つり別式
五代事と、峰乃庭也と云ふ

▲宿鷺ノ歌

高羽鷺

夜渡水鳴き羽の葉にうかぶ
ちくまく水を休め小出でり入久堅く

高之乃鷺

小中大水の里ふと、渡升門傍

高櫛乃鷺

かく方乃上、纏舞のあの方より山

高二三町もえぐ一後氣乃名能あり

戸難水鷺

ふら覗くよりお門を渡ゆ

鶴門乃鷺

鶴門乃鷺、港乃下小豆庵云乃説つ不

鶴之乃鷺

仰うて云ふと云ふ但くかく名付と

不動鷺

若ち十町半よし又栗田山のと、因名
号とひ鷺ふうれぬれ株も、走狂鷺

鶴之乃鷺

栗田山鶴秀率乃上小豆有

穂ち凡至山も鶴三井も乃流下た鶴信

正乃佐那も根は北面御も鶴も鶴も鶴

もと鶴も鶴も鶴も鶴も鶴も鶴も鶴も

鶴之乃鷺

鷺峯と木村峯の處の山の在

高社鷺

木立丈丈も乃山の山ふと

椎琴鷺

房山戸難水鷺の鷺也

▲高川之鷺

高桂鷺

鷺峯と木村峯の處の山の在

高社鷺

木立丈丈も乃山の山ふと

椎琴鷺

房山戸難水鷺の鷺也

葵谷川

又肥門左近葵谷由社のあ方
を源の川ありあとに車坂乃隠する處

ハ死ニ棄ニ棄め棄てて流れ伏すより
後川へ爲る正に傍く名とお義とお義

小石子川乃小川と云 懸垂ぬる所よ
石川也せ三井川の源氣有も源れと發を流

又を世強士石川丈山隠ニ棄もみ難く
海うがせれ小川へ源くたれ陰の水敷を流

清瀧川

あご山の蘿小石子川と
源手洗川

下葵谷平社の東源あの方
ち浦野と源す川と上三小社井頭を

大井川

さう天然の所うろとがくと
源流川のまきと岳の尾山と云れめぐら

嵐山川

山乃あら蘿とあく海の清瀧と名せ
大井川梅津うら門と源て赤瀧川爲

鶴鱗川

仁和の更双の母の小瀧と呼
紙尾川

か壁のあ平壁乃赤い壁と云り

中川

赤板野又のあとからあく海
中川の高くとも川急の急流と

今出川

今出川大京極川と云

芥川

こう大井川のあふ源と小瀧川
くり又源とまつり源の小門大云前よ

白川

こまなさくすむすびの草の地
芥川の源も昔小糸川西草野古川と云

又

とくとくと源田白川橋乃木と云く二事
豊知越院のあたりかも川源れふ入

玉柄川

下さるも町東の今小瀧
川考

川考

考古今中段右大名
字源川

船の舟とくらり京ちくを

宇治川

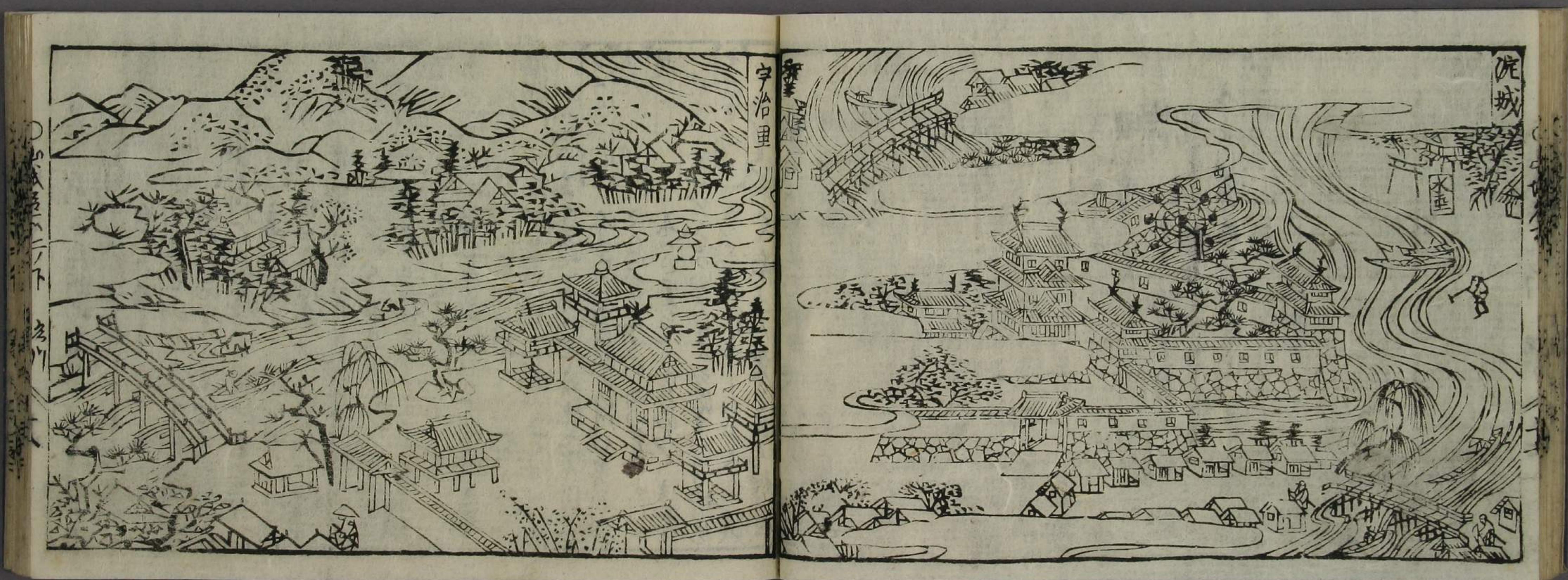
舟と川舟源はかく名と云者之をと
源川へ爲るく里山門山の名不表に

あく少しがれく橋を東西の山吹
内浦橋の橋の小瀧う源と云ふ所

源川

至又山源と云ふうと本端中尾
系今來申乃方三里を引く

大小の橋々大い本瀧川の源よし小伏



尼寺川尼寺川あは後川の支流中之本流川也
川後小河川後小河と一般名爲食指津へ行
泉川 東津東津外をア老山又うれ泉山の名の泉
本流川 山川發源と本流の里ある
と源源と門と本流と云ハ門のあざり
五川 東流東流をすよりを五川す
五川五川の名は山が新しくさう改め被ばく
梅障川 沢の西に松毛らむきみ後川也
梅障川梅障川燒と新子の無大本意のとつがれに後川也
桂川 西門西門もえセ宋邊の所也
桂川桂川もえ西へよる平町經後川
三つ子川 線もえ西へよる平町經後川
三つ子川三つ子川裏故其の名は不思とぞく秋の十月
松川 健羅のあら井の東に角原惠
松川松川の名は健羅の東に角原惠
松川松川の名は健羅の東に角原惠
松川松川の名は健羅の東に角原惠
松川松川の名は健羅の東に角原惠
松川松川の名は健羅の東に角原惠
松川松川の名は健羅の東に角原惠
呂律川 大原勝林院の名也と呼ぶ
呂律川大原勝林院の名也と呼ぶ
呂律川大原勝林院の名也と呼ぶ
呂律川大原勝林院の名也と呼ぶ
呂律川大原勝林院の名也と呼ぶ
七瀬川 深葉川西も小河也
七瀬川下多羽小河をアア葉也
古川古川下多羽小河をアア葉也
古川古川下多羽小河をアア葉也
古川古川下多羽小河をアア葉也
伏見川 伏見川乃源流伏見小河のく
伏見川伏見川と云多羽小河をアア葉也
伏見川伏見川と云多羽小河をアア葉也
伏見川伏見川と云多羽小河をアア葉也
伏見川 伏見川乃源流伏見小河のく
伏見川伏見川と云多羽小河をアア葉也
伏見川伏見川と云多羽小河をアア葉也
伏見川伏見川と云多羽小河をアア葉也
伏生川 男山の藤ふ橘三面川之河也
伏生川伏生川と云多羽小河をアア葉也

跡勒川

吉田村乃西小河支河也より
後木と林木と往來の跡勒川三の外也

石像の跡勒川をそば大中下河也より
跡勒川と云ひ之は後木小河と再興し
名地名と安重と施たる方までと曰く

跡勒川と號す

月勒川

跡勒川乃西の方小河と云月

勒相思通矣公法松と人へまきをさみ
かゆすトホー東木とよりされれ
は從へ施せりて東い雪院の雪

月勒院と云傍流乃後木と云と

近東河东

清志院の東細紀川と云

大东川 小东川

狗游川 流れ出く三

条らじて入と大东川と云南流ちの中

史級川

小河と塙川乃ろ一条西と西

小河と名ども一ガ川と云

西小河

を奉乃東小河と云

中林房

為聖院乃らうち芳と小河

門の名と云每年六月晦日慶隆

さの傍流此川小河あり後と後もと

相陽川

月野より生む中野川と云

口源流乃因とより尾久ノ山と云

多時以前と云る事御内山と云

納云雅美乃女大納言作局西海より海

王端乃大夫三位と霧に日聖と云

くとくとくは不そそがひひひひひひ

ひひひひひひひひひひひひひひひひ

お陽川乃あよ琴壁山とて玉主御

がまろ別とね一山下玉主御

疎せくわく不そそと云

五位川

山邊乃山の傍よきひ名のい

れとす一既又古へは川をすと後

あさと何とあさりと云

志井川

下毛羽乃西河と云え弘年

中に牛絆弘中ぬ忠臣屋乃大後りと云

うれ志井川と云ふ也一京軍と仰る

芹川

左小河 茅仁の帝有川小河幸川

一既又時昭宣云是と云年少く伏草

乃列より事ト唐義志の琴乃凡と

蕨をかひくんかりと謂ふ云うや

左太と云う足詔ひ御宿云ふ余

これとく門跡じ久命を至へ原野小
さづらもひふ今ニミテ小林ト、り
命をかうねす候とば桂金と多く
いふニミテ御列候と多くれどか
一々べそして深美小能く之れと
ねまりておもむき極多とまつま
天衣ハ日蓮家美樹あるわれば
地爲我極樂ち付とり

峯名考

高麗峯

海乃山也と云ひ作大つちあ
へれふる山乎平野光院乃山名也
居房と云又聖ろ乃云御茶園乃山名
在白雲村と云又日蓮宗の侯もあり
を世主御内に於峯て小丹波納公
姓それ譯和とあり

祐源院峯

多般かく段の方の峯也
御殿指生抜コモ又栗田石乃直義
と云と云が峯と云是人也

桂峯

人志不蘇乃興也小山也と云
誠も内景院房と桂く山峯也

獨秀峯

南極もひとて天也削いもひと
山みて也称ち十景乃は一たり

絶峯

あ山小山也方也あ山乃孔所
若峯もと太小出す山外等の峯也

峯山

山也自の峯ハ翁自山也大山也
城も内景院房と桂く山峯也

小鹿峯

山也山也山也山也山也山也

麻若

一ぬ高龜山の麓あり者佐定
傍於ノ山底とて平判友康於丹波
ぬ成澤寺安ゆキ歎追放の源謹成

名考

伴立ありて此へと爲ふと候合音と云

傍山若

輔山山乃眞面の里之不動山
王布泥乃東北源中御人シロウノミツヒトあゆく矣

法師御傳來至一五

大若

元へ御成院山とより及山等を
大若山と只り堂宇建三時、寺の頭
裏山を経と今尚名付す内に大若山
而今於ち乃多也とゆふれば不す
觀音より人の号す乃巖窟とも雲
上人乃いもやもあらうもてより

處若

源葉山に名付山乃もすと
支ゆて處りひまろどく之故ニ處付
馬若

比叡山西端板川の中流より
れ波強と人始西往の地今乃處付乃
かりと彰是名とより

宿若

源葉山に名付山乃もすと
處付

長若

寺ノ山乃東小丸四町乃居

小松若

寺ノ山乃東小丸四町乃居

御法僧名

小花山山叶色方人比叡山三義

多々云多とあらうから鷺鷺小ひ

御幸名

八幡美濃山下を候る御院

山小鳥連乃候り國へ此事未と傳へ云
般小猿法僧と候す高野山小鳥有ありそ

大尼

八幡の山下小ちく御院所十

九人の御子名は人等御生立乃内林
音也極く林樂乃古事小後少後

一坂所ノ記

雲母波

以假山西坂をもどし之處の

日障坂

吉田山東の麓なり此即路筋

長刀坂

度深乃源の向ひ西条八方を云

長坂

又裏手ら麻若へゆきと不用居之

車坂

變翁ノ坂れ只岩登、一ノ

三年坂

坂をうづくれば小ちう云と二段上

松坂

松坂より岩登へ變りたる

柳坂

白鳥れ柳坂山方隆はふぞりてせん秋も文

鶯坂

下栗田と此の處のものと云

車坂

湖乃西小糸村分丹波三峯

三峯平

每年五月十五日社事祭山中水立三峯

御幸渓

三峯乃お渓之溪乃弓樹林

三峯

每秋か立く石室深淵之世人乃

不あくノよりとて就光せり
渓山峯巒寫八月既而て難分之

一星と稱え

仁和ち乃東も小至多一
一の是ニ乃思ニの是とくやうづり放よ
並乃思とくり一の是かよろくを區
それよりは小ひと一村乃松を

周雅集 宇多院直製

久之夜並思乃思秋のまむ御書
八桂乃思 小山毛登乃上れ山と云別字に
流乃思 流乃各の紅葉を紅葉や小室及初見
初思乃山 紫葉と大波ち乃樹くせ小子平

乃墓石とえへ翁と六象辨處名義乃き
られくらふと指き うと人あつて

私思の世あえうや高を後みへんと云
神樂思 吉田山とま月の社乃菊乃方巻

津樂思 そら林のゆれゆ社乃乞吉田の姑と
津樂思 加波經樂乃わし思とひ名の

やく平地と勝宣院及原にねど極多り
井垣これあり

而乃思 駿川乃山とすてて云

日乃思 又碑又松栗園山の東と
人凡ノ思 洋東納云が松葉紙と云傳云

酒歌乃意と云り今をあとすす
酒乃思 錦乃寺村乃赤山小丘西也

月兒思 源平賛歌化小源家或然ら
より尾山月兒の名小姓と佐惟也一二乃

楊小翠と云今をあとすす伏ワク
楊小翠と云乃易多リ

纏思 お絹山綾波御衣小あ二織引

吉面御案更りか乃冠ふを
古之縫物於小瓦トトト

山野里 背後すう深御身り 栗田にむり

相坂へ乃中乃もうちとて相坂全仰ゆ
十載も立教ち四ノ氣ひぐれくと云奉

立教とせはるもあよ歎きの來本がめよ也
系乃東もひりか乃下波ひま

鶴先鳥をと候事くと云ふもあはる也
伏カニ思 体未乃樂と云ふもまつ又未承

乃伏アヒトの太れ乃名也
本嚮雲 伏足内あも振生 人丸音

一 置く船とる郎

サト

小城の本の室あらばあれぢやうりをするをもへ
家家黒

あ山栗生乃もん先候の後
は山方葉少ぶるれ竹のとみの聲の音の聲

萬井里

山山松鶴竹の西野源

萬井里

松鶴竹の東の櫻絛くあめにてう鶴也

萬井里

あ山栗生乃もん先候の後

は山方葉少ぶるれ竹のとみの聲の音の聲

萬井里

山山松鶴竹の西野源

萬井里

松鶴竹の東の櫻絛くあめにてう鶴也

萬井里

あ山栗生乃もん先候の後

は山方葉少ぶるれ竹のとみの聲の音の聲

萬井里

山山松鶴竹の西野源

萬井里

松鶴竹の東の櫻絛くあめにてう鶴也

萬井里

あ山栗生乃もん先候の後

は山方葉少ぶるれ竹のとみの聲の音の聲

萬井里

山山松鶴竹の西野源

萬井里

松鶴竹の東の櫻絛くあめにてう鶴也

萬井里

あ山栗生乃もん先候の後

は山方葉少ぶるれ竹のとみの聲の音の聲

萬井里

山山松鶴竹の西野源

萬井里

松鶴竹の東の櫻絛くあめにてう鶴也

萬井里

あ山栗生乃もん先候の後

は山方葉少ぶるれ竹のとみの聲の音の聲

萬井里

山山松鶴竹の西野源

萬井里

松鶴竹の東の櫻絛くあめにてう鶴也

萬井里

あ山栗生乃もん先候の後

は山方葉少ぶるれ竹のとみの聲の音の聲

萬井里

山山松鶴竹の西野源

萬井里

松鶴竹の東の櫻絛くあめにてう鶴也

萬井里

あ山栗生乃もん先候の後

は山方葉少ぶるれ竹のとみの聲の音の聲

萬井里

山山松鶴竹の西野源

萬井里

松鶴竹の東の櫻絛くあめにてう鶴也

萬井里

あ山栗生乃もん先候の後

は山方葉少ぶるれ竹のとみの聲の音の聲

萬井里

山山松鶴竹の西野源

萬井里

松鶴竹の東の櫻絛くあめにてう鶴也

萬井里

あ山栗生乃もん先候の後

は山方葉少ぶるれ竹のとみの聲の音の聲

萬井里

山山松鶴竹の西野源

萬井里

松鶴竹の東の櫻絛くあめにてう鶴也

萬井里

あ山栗生乃もん先候の後

は山方葉少ぶるれ竹のとみの聲の音の聲

萬井里

山山松鶴竹の西野源

三文乃事小河より大橋に渡る十段の入

此橋は二丈と云ふとソラリ

琴彈橋

山林色の風氣也乃内ニ有

蓑帽然葉墨之跡が氣也

志アヤモシヒ御子也

大橋

二三束又象乃移く事跡を表す

此橋は諸國左衛門前也

立橋

太田川之水也今乃松屋邊

木造之系附乃又堂々く

大仏殿と通多の御堂と御馬場

そんも今乃う一海引セラリ中島乃

橋もとぐゑ充多乃大村裏本郷

ノノカムアノ御橋と申す

西橋

一束過り門の後セテ橋と音八

坂乃新居ちの洋越せ不本意の事

此又云善濟院船也く左も本意久

寺也く事にて御子がりされ御橋也く

敷札小あり橋も見ゆかずか持ト御利也

ヨリ乃テ六種也くあほ生歌ふ處よ

渡川橋

一束城ノ井戸水渡也矣今之東

石垣とく爰惣國源乃他なりト吉野

極く日見乃傳也云天教古事記の事

渡川橋

吉野川水渡セ一橋也

伏能橋

又乃法陣換也乃橋也く名前也

越天橋

東福寺乃内ふき廊下橋也

内扇橋

泉涌もへ只乃橋へすゝむ乃

安樂橋

降りてより新宿小竹橋と下

と云也乃橋もうちも乃狹也乃原先也

て青煙小蒸もひきまつれ和小聲也山院

の君を伏波鬼志御橋乃御奉^ナ江深

ちふ火炎ありまく御子也く御子也

身り火炎也たるとおもひく安樂也

懸橋

一ちと氣付りかく名前也ト

白川橋

右目也三町程もあり

鶴橋

峰山乃皆山城の行方

ち鶴脛也く入附は移も移く通る

左角持くども或ハたく京民窟橋

二束大橋乃東向川水勢

小桟橋

東ちきかわをも難く行ひて世に通す

六木桟

三島國に在る島乃石木名の山名也

大和國

多勢の方橋も故太和木橋也又大

和橋

相武天皇造焉三年三月り詔

山

四年二月三日御水内橋今考之

船橋

泉涌山のあつた月乃橋也

主上

作の府市車の橋と名づけ泉涌

船橋

主上御作の府市車の橋と名づけ泉涌

金持

河内乃木持を乃木持山城
河内乃木持山城が造る時使ひ故曰
木持山城を造り日も夜も工事の竟り其
名を木持山城と申す也木持の持と云ふ

弓削持

河内弓削乃木持西面に之を弓削
弓削が弓削乃木持西面に之を弓削

弓橋

河内橋津三ヶ山の山城大
少安社乃木橋津山城也大

山城 小山城乃木橋津

▲名野と義

内野

小野夜色る鶴乃木山云
王深乃木山ある天井の主所
大連ち乃木山乃木山

外野

今木山乃木山
今木山乃木山

内野

上野氏木度山又木山城大木城
木城乃木山乃木城

外野

木城乃木山乃木城
木城乃木山乃木城

内野

木城乃木山乃木城
木城乃木山乃木城

外野

木城乃木山乃木城
木城乃木山乃木城

大禹少塙乃山より社の神代のうもそのせり
御経野

御經野

御經野

御生所野

御生所野

阿大志野

柳原 大公殿乃意セテミテハ不榮

上柳 ふあ乃外也セテモトセケル秀
吉公大公殿セ連々付柳原の後退紙
筆取もて縁りタムヒシ

▲ 尾と称する物

鶴尾 桂尾 梅尾

あざれふでさくらんち後尾カクあり
出其のる旗ハ高き桂尾乃焉く梅尾ハ
御院の雄北西く桂尾ハ二万三千枚乃
御院より

牛尾

乃方小山村カタマツ乃四千四百
足く守屋小山カタマツ守屋居士乃向三
由く執事と安封す尾為毛乃奥院

水尾

さうよりわざく乃大内院
山教小出せう处も落和天皇く菊をり又
は石小出せう處も落和天皇く菊をり又

西尾

鷹尾のゆのゆにてたとえ
太祚社の教に坐させ

桜尾

鷹尾のゆのゆにてたとえ
太祚社の教に坐させ

鷹尾

小山大至乃室なり又室生大
小山梅烟もり銀煙、鷹尾乃焉

草尾

鳥窓房下丹波乃と申萬葉、
より細若小出つて小碎セテ象尾碎と
申と稱す放重又山神碎、大云是も大山

鷹尾

乃坂と云れば慶次乃源乃而小松うち
又虫刀鐵とく梅が初めり而乃腰と經
てひり不却く猿燈も三乃乃ち小梅烟

もり三ノへこゆるふ十三回丁痕ハメ
本津川乃東也小云やを三室

鷹尾

山鷹乃山上ふき無依極等のモ
鷹鉢と云ひて

松尾

七月十六日お法乃字とまう處をす

は山さんへかどりて山さん乃の裏うら本もと小ちいさ向むか

松まつ木きは延の光ひかる表おもて暖ぬる衣ぎと櫻さくら花はな乃の用もち

くるよしとすと左さへ承うけ宣あんは不ふ小ちいさりと

孤こ波なみとそと是これよりふ岩いわ倉くらくまろりと

墨すみ傍そば乃の曲まげうねど之のががひそまくも夜よとすと

墨すみ傍そば東ひがし移うつ黑くろ星ほし乃の南みなみ万まん集しゆ

墨すみ傍そば京きょうか神かみの方ほうを難にがたえへ懸けん候まつ候まつ

墨すみ傍そば衰すいちとも危地あぶらきとも西にし國くに山陽さんようの往むかきと

提さげ承うけ先まへはと幸さちひと毛け川がわ拂はのうとあせ

墨すみ傍そば山さん乃の火ひ電でん火ひ電でん器きとそりとそ

墨すみ傍そば列れつせきと黄きくらげんとくはふよりう人じん僅わずか

墨すみ傍そば御ご居ゐ乃の上う火ひ電でん器きとそりとそ

墨すみ傍そば泉いずみ涌わむとあ東ひがしあ乃の中なからに

墨すみ傍そば新しん華はな聖せい乃の社しゃを崇たそ乃の系けい宿しゆく

墨すみ傍そば泉いずみ涌わむとあ東ひがしあ乃の中なからに

▲ 律と経と書と教

経きょう及およ律りつ

山さん謫ちく流りゆう

里さと詔せしめ

大だい詔せしめ

太たい詔せしめ

久我
殿

紀伊於コニト
トミツカシの後
於海乃西モミミ
ノシテハシタモ

玉塔
殿

墓モニ
遍廣系傳モニ而の綱モ急

足羽寺
殿

松乃尾乃あすり氣味
石あり松尾乃旅館も乃ち号より

古山
殿

古山々大軍セ率
古山の獨れ氣が一山南小泉

道場
殿

梅波村も柔立村也
梅波も柔立村也

八町
殿

八町暇
而の柔紙八町も而の空八

小牟乃
八町乃ありと

小牟乃入八町乃ありと

▲ 洞並側と船うち取

櫛
殿

八船川乃山中水ミ洞乃食

七
殿

七く中少ア高ニ二丈程ヤキニ委
五古ヘ尾浦は洞に後り放小屋が洞と
より酒音至多は洞も丹波西大原

壓
殿

八船小名之を度ホ压殿

九
殿

九く中少ア高ニ二丈程ヤキニ委
八
殿

八く中少ア高ニ二丈程ヤキニ委

十
殿

十く中少ア高ニ二丈程ヤキニ委

十一
殿

十一く中少ア高ニ二丈程ヤキニ委

十二
殿

十二く中少ア高ニ二丈程ヤキニ委

十三
殿

十三く中少ア高ニ二丈程ヤキニ委

十四
殿

十四く中少ア高ニ二丈程ヤキニ委

十五
殿

十五く中少ア高ニ二丈程ヤキニ委

十六
殿

十六く中少ア高ニ二丈程ヤキニ委

十七
殿

十七く中少ア高ニ二丈程ヤキニ委

金剛
殿

金剛乃下流东福ち乃門

乃意境ふあり鷹の木立天正年中

小石川水松生しきの篠路乃瀬平篠
森乃南に後り嘗ては多於西昌代

前田酒井院玄以法下小金とく
之れと捕一め三象乃楊乃南あがく

大金と入候ふれと妻殺されちる
解體くらば金あとたぶ施れ傳く今

年端解体ゆく度と金とボトと
より金へお別れ度ふ況みへり

解体くらば金あとたぶ施れ傳く今
乃不ふとぐまう舞ふと大金と解と

解體くらば金あとたぶ施れ傳く今
乃不ふとぐまう舞ふと大金と解と

解體くらば金あとたぶ施れ傳く今
乃不ふとぐまう舞ふと大金と解と

芝と松むすびと解

連理乃芝

市糸乃高野冲村ふせり

解體くらば金あとたぶ施れ傳く今
每年四月朔日小麥歲乃社同之ふ
絲ろた小道くゆつまた詔のく慶樹
とさり難い小豆と豆をせりほ人を
うべく金とす山豆く難い難い難い
然どぞりく森乃木らふそとあざり
解體くらば金あとたぶ施れ傳く今
二葉酒く乃木有小豆く豆入
武蔵坊弁益みが長野近く家不連
内ひ不毛居せり正俊か塩川乃解と
し承もひ不小宿くあさりへ使ふ
ちく(三タナ)小破ふうけあくとも山地いた
耕作もるゆかとく

森と松

多武森 久乃南吉祥院乃下二木周

齊吉公ち森陳首またひ玉とぞりか
庵とすゑに肩立ううとく難めじね

赤森 上安成郡社乃佐人也と明

白森 袋森川より木乃林へ矣ア
財をもつては片毎の森の木ふとやく

桂圓森 白門乃木

序略

山海集

三二

序略森 沢乃小池の木大鷦子の木小を人を
かうてそくを引くとおれは澤園の木もさまで
大鳥森 及し澤園の木。あらめり

又小山市尾村乃より小日名

夜森

松尾と尾山乃中間、後移主西

御子を毛の山の首もすれま森
御木源社 横入神乃あかも 俊太郎

酒を毛神や毛を毛根を算事とあらめり
御木源社 横入神乃あかも 俊太郎

不津村乃あらめりと云古神社に山嘗

乃長日社乃古小未史と毛毛めり

御或天里の酒トタム老船屋が御原

シテ取るも出でりは佐土姫門左官

酒至森 山嘗乃酒と祭天里の酒と又神南諸森

並木古去布し毛と各の里毛と又神南諸森

酒至森 畏野乃傳ナリ

大木森 夢の西木と契成の木社而

庄殿乃木大木酒ハビ支森乃どり

酒至森 源木乃毛と出處天里の社而

大木森 からとこの局毛と庄戸毛

酒至森 云生の東毛の局毛と庄戸毛

酒至森 傷院森、かも川乃東毛傷毛のあ

酒至森 槌現乃酒社あり

紀森 下かられ志林と川不乃神社を

新風森 一毛若乃の小聖護院乃林乃

赤又毛毛志治年中毛聖護院乃祖場

參毛心新風酒神と云坐て神傳す

今社の終と森乃名と本

禱森 東三毛毛井の森とより

弓小榆乃木の森とより

比羅木森 一毛毛村敷里下松乃酒

毛毛今下毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

御無森 山科大毛村日聖跡地毛毛

なり古ヘ大日乃經とつり毛毛毛毛毛

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

乃市旅所なり山森乃名源平巖
表記ふるべく

三、表記
表記ふるべく

相逢森

栗插野ふる

叙山面乃藤ふと毎年
八月乃向い木板ふへて叙山乃大山
かうり越りしきひ杜ふへて先三
は筋ハ叙山乃西より山麓ち重
氣と下り大池もれをよりこれへ
於旅者り人これと逢火ととりひ
山門ふ邊傍あり竪毛立ちる人畜
若小馬と病死せりひ松火敷を
もとく又死す老翁乃松火敷を
て厄燃とあり危の高くは森ゆく
お邊とに別火邊うそと云傳り云
と寂きる心もくれ野火厄燃乃
れみ學すお邊邊乃松火敷と云と
あすふし陰澤乃松火敷と云と
山林小はまうを陪地ゆく光と云す
ハ又傳説之海中水くえをされ
かかず綱魚乃鱗老翁と云

△瑞花名木歌

西行揚

西山大桑豈ふ古へ而引法
老猿耳一揚多又东山双林也わら
旁り宿

喜慶

東山も産む内

雲際揚

仁和ち川窓是千いに揚
源草の乃揚一川あやと叶の葉深ふ
小鷦揚

さう天鷦もく後小鷦

小鷦揚

あり小鷦のも禽院乃れ危をもろて
詠登入乃小鷦まれば揚小と夜と幽
紀大井川へりとかけ一と

好柳

嵐山ふるこちくみか乃柳とあ
らく山小柳く吉聖山乃家と川下り
旦暮主桂現實と立入う雲火絶壁

独孤松

東ちゆれ新堂乃あみあき良
弘法大師大應々大山より就往つた
小病とまぐへとく獨孤と云術と
屋を小松毛色へ獨孤ひ松が弊
ス詔の多難休復る乃松みかより
中く名松树名とせり

捨樹松

立狀也素乃うつすまく立
えがて天皇大師みれ契約乃ゆわ
て山脚終山崖轍より捨樹名くはな

紫雲松

而山栗生聖光院の下り
枕一かゆてま三かゑ法輪より入滅
十七年安灰二年二月廿五日は正中
上人乃へき様と余暦一かゆ時ひねみ

鶴鳴松

か野徑堂乃赤かふをかが

寺乃翁へ蔓祚山極へ御内もこゆく
既往と極へあらとく又乃院又ひねと
并參え松とみどりを院とあらず學院

只か跡ふ於く御假と傳大栗湯
乃要之細川三脇翁廟向松の

あ小栗亭とえどこれと松の席と
より新向松小お向の義へ白鹿ト号

佛寺ガ松

空条逐院の然乃か竹や

町ス人全の裏ふと左へ内都利友城
川乃飯乃境内かれいに飯乃松とちと
それと櫻りぬを力と掛ゆるの居なり

有乃松とよりは地へ細川村有窮院
乃場せり後人松と換とあらず

れ有ハ建仁の永源院の近附で鑑延

聖宿梅

今相圓も乃中林光院志

庭ふ古く乃猿猴るる毎春花とか
すも花白くもくろ殿玉と云ふ

てち郁と是古くある小もく紀
貫くかうやくもくろ殿玉梅のえり

り村上天皇ア山内ば樹と内裏へ
石作小わざノ女やくおニミ、枝

乃るに經典と付くさけ多

聖宿梅

海陽城心院和泉式ア根基

大丈乃傳

乃傳不至又今出川東小院ゆゑ

度院の山の山の原岩のねこ

木志小篠山小篠山の志木

馬禪松

御心也法雲乃あ

光院松

一木ちやふまと村ふと

杜鵑松

四承乃場金蓮も乃中

松房乃庭小至毎年勧夏小勢シテ

時多もそくは松小うり物をと發ハタハタと

とぞり著老院教之素乃東每

ふが外めぞく財もどもくあふ是

杜鵑ねとよりスヤリ川乃赤中立委

急に杜鵑是く云下まこと中古家

候乃人トヨヒト小あり杜鵑トヨヒトとすと

松トヨヒトとすと中古家

利休松トヨヒトとすと中古家

松トヨヒトとすと中古家

又松トヨヒトとすと中古家

七松トヨヒトとすと中古家

と松す蓑林カマツク乃夏最カマツク小前カマツクと

聖衣カマツク乃夏最カマツク小前カマツクと

と松す蓑林カマツク乃夏最カマツク小前カマツクと

松トヨヒトとすと中古家

深松トヨヒトとすと中古家

梅尾カマツク高山カマツク小高カマツク松

大池カマツク和方丈カマツクの東南カマツク松

又松トヨヒトとすと中古家

小野カマツクとすと中古家

二年松カマツクとすと中古家

又松カマツクとすと中古家

一石石と松

紫雲石

新黒長方日裳カマツクのあ古カマツク法

捨と人現波カマツクの付カマツクと上カマツク常カマツク之カマツク雲

慈蔵石

新黒長方内カマツク色カマツク慈蔵和尚

常カマツク不カマツク石と毛カマツクと之カマツク波カマツク法

通鑑石

新黒長方牛尾カマツク法處カマツク也カマツク石

延祐和カマツク不カマツク通鑑カマツク也カマツク石

信ノカマツク經岩カマツク也カマツク石

辰戸石

新黒長方辰戸カマツク也カマツク石

蓬石

新黒長方蓬石カマツク也カマツク石

小壁石

新黒長方小壁石カマツク也カマツク石

禁カマツク中カマツク事カマツク也カマツク禁カマツク石カマツク也カマツク石

奇雲石

三章

七重のあはれあ葉障の内と
古の跡る是をアゲ或年乃大勝あ
小通れどちく三重市草町舞夢石齋
と云ふも一と前事乃は時日がちに
多れど又八重乃里山の御内所あり
舟登坂山ふとつ時もが勢の長不ひ
うき石と傳事多くは不小争りと
庄稼石 は石名とケ不外二河の廣
沢乃わ山際より一色ハ脫離壁矣
傍山の傾する貌變居云乃庄稼石
。而ハ源乃西山小乞之色ハ夏雲
圓峰乃庄稼石と云不外西又八部と
云れく珠地とて河ハ栗田口神門
ま乃山上ふゆき茎ハ古ノ御基シテ行
乃はあやく庄稼石と云々と計千半
統法石 深葉夷傍ちに色目蓮上
人す上足日像上入乃统法石と尾
庵石 猛若目蓮家乃もかを古
ハ此石源陽柳毛陽神少翁下ル所
五丁と左國秀吉久伏元の松(引見)
育園石 藩名ち地主於那のあ兵
丸方經直く御アリ色と同と見え
まじめの如くと云わざりと能くす

鶴石

三章

西洞院邊二重下ル三断目アリ
此不古ノ石不名翻云ノ故ゆて泉石
小姓乞乃御頭一休の一石年と云
鏡乃石 紙屋川内西の岸不乞泥也
乞乞乃然黑蟹や蟹ノ模様ノ較美也
ト馬石 下候歌入馬而更事院
と云あれあこさう乃ト里内水車保之
ひ不中くとまらキシテ品一見れど
もて小ひる内小よた室官山社事一
かひが石不うもせみハ左即く名付リ
利ひ社多ミタモアリ國自利事リ
セ久ノ國自乃東久ノ車乃牛地小立
もとまく便まし人これとあやミ得れ
利ひ社多ミタモアリ國自利事リ
右角ハ石河乃御事也也也一主因夫
多もとあるす

秋石

三章

未三度院乃凡木を小木
口發ひ起立廻し模西風ひそくいれ

左戸とらちくあひまりきれは根三氣
とば石小書付そととらく大井川小書

とおけととく又游口女房小ありとて
かくれてうち石と、游口座石と云
せうへ石

輪るのや、信心名山の半山の云
せうへ石とくと又山ハ游里と云
小ある手斧をうせうへ石とくと云

冠石

小出の東河内村より

せうへ石とくと又山ハ游里と云
手ある手斧をうせうへ石とくと云
せうへ石とくと又山ハ游里と云
手ある手斧をうせうへ石とくと云

仙遊岩

泉涌ちと山と不る二所小傳

うち歌仙移ちと号とばも仙人あら
仙移石乃下りゆき後改泉涌寺事

風生石

大夏院の角あひ飛墨と飛墨と牛

頬天王の石と小木泥と多木の社城
今乃張墨と立塔の大王京山の風生山
子本泥と多木の石と小木泥と大木

藏墨石

和本院の内風生石乃西と

小般若宗道、鐵壁石と名くひま

風生石

遊水の巣の峯の小築、之峯の

築小築とも石山の源、り葉小築、中
二丈半高き一丈幅の石の築、之築の

雷石

偏高山の三峯頂前溪の水

為底小木石と、高巣の水と、世
俗小移卦の枕石と云り旱乃ア

雷石

偏高山の三峯頂前溪の水

古へ洋並木石と、木石と、大寫石
ありと、方丈の石と、木石と、大寫石

方丈石

因野の外山の木石と、木石と、大寫石

方丈の石と、木石と、木石と、大寫石
人數十人庄セリ俗小木石と、木石と、
木石の石と、木石と、木石と、木石と、
木石と、木石と、木石と、木石と、木石

海石

達仁寺方丈乃後東山の隅

海石

海石乃中木石地と、木石と、木石

計かれたま根乃地アシ小入ニ素竹尺
と云ひてあるす塘と號くゆう也

たゆく動くも御一もるひい石附

候をとどめことより

雙一 東福寺内中あら古へい寺
中莊殿院内庭ふ浦あり浦中ら

就出く聖一圓院乃法と後みは

追と理 る岩河立く般年今

雙極石あれあり

一 福と神とる所と

本乃福

御林そく社至ひ森不毛福もそ延仙

塞内れ御とさりく福もそ延仙

あもれ延森本福もそ延仙がまつれ

福の福

うち海平坐院アシ小方古ハ

限多月月老りどりえ延せの様の様人

楊枝ヨウジの

波あり

一 園と郊

竹田

東より東内門院内南アシ有

鳥羽伏見内中石アシ有

生だそ竹田内東の後車喰アシて草を生す

六田

鳥羽乃鳥り

吉田山

東山神示風アシ村山信生二年爲

鳥羽吉田山の社がれづ大室下石代

案徳田

東格高若口是神アシかく竹田

小字鳥羽鳥乃尼川近東川原と

除摩田

東寺乃而小之今東引乃

人等そ小作を右門脇中納云のり

りそ内終地アシ居も通照院乃

憶の外ヒ山吹田と

波田

三十三乃雲内南毫町乃東

有ふそ古川法皇乃難アシ天保

も般乃平畠乃波乃流と

よりくこれと池田と称す今乃後程
ち法里堂のあふ小池をこれ古内

千畝の池を表しむれ

沢田

六地蔵村より大山の東の

弓弓筋乃西限なり

石田

小栗栖と本牆よりなるたり

作ぬえど森の中へ始はるて石
田と称す万葉集所謂山村の
石田れぞ古へり勝境の地と云

花園

多喜村の小みち古へ夜壁

左太鳥頭あう多川へあ毛原の

地小石の石筋山とよき花里とよく

森山法里も地とぞし引まつて古

今れ妙心も地とぞし夏壁とて海
かふ於く別ふ花里の地と楊木あ

花里あんたし又久奈の朱蘿の

や二町と云

梅園

一象の山名大支のあたり
古へ保光のあゆて夜壁の世不称もる而

梅園

三象の南東極の東今れ
花里あんたし古へ夜壁のあゆ

森税茶園

八幡山の赤山と世不称もる而
八幡の名わ牛蒡のばくしり勢

年くくれとひく名を古稱号あり然
此森税朝日等の山へ古へり称す

不有り

朝日

海乃小壁乃をゑて古へ此地
小景園あり朝日乃墨と称す當云

小景園室へ相尾小茅門と流り然大

今れ茶墨と御前上小松株の松を

化庭

八幡山の石

天龍之庭山

方丈乃後小石の巖窓

圓峰性名とねみの所後毎よ峰

山あ石の松名と瓦をむね假山と化

今れ茶墨と御前上小松株の松を

化りを流これあり

雙林あく假山

双林ある文阿孙が庭か

紫野之假山

あり東山處の圓明相假山の他り古に

大原の掘井丸門主作敷乃跡院

大原の掘井丸門主作敷乃跡院

つら威を二年 化庭 二二

不み五之假山と後く至る湖水の東方
と摸す無仁乃名亂ふる佐燒失と
御大船山為石乃後移なせり

妙勝寺假山

勤修ちたる事無事ゆく

利親王法門院爰が經房よりて嘗て嘗て
乃葉山の弘法大師乃他う承みと為石
乃持持絶氣をり

大通寺假山

西八桑尼^{アシナラ}あ通無心院の

方丈小室は葉山也に古^{ヒビ}小善と云ひ
絶美とも亦いき苟故義月山中院庭の
假山と善と云ふが他ノ如く山善小刹
あくみ善と称じるり傳記未詳

圓泉^{カク}も假山

漫滅大井川乃經房之

西芳も假山

松屋乃古小室堂ある

假山是又後窓乃他う承て經房

乃塔堵^{サトタマ}も古松枝^{ササキ}れ奇石空岩泥色

大川院假山

大連も乃燈火^{カツチ}は院の

庵^{カヤ}は赤山庵乃日明^{ヒマツル}乃傍^{ハタケ}が有石と雲
じ不妙く^{ハタチ}根若石虎^{ハシタガ}不石^{ハシタガ}とく根若^{ハシタガ}

航安寺^{カイアンジ}毫山

海^{シマ}而^{シテ}有^リ石庵乃赤山庵^{カヤ}有^リ

細川湯光^{カイ}御^ミ別^{カツ}まも庵^{カヤ}乃庵^{カヤ}

古太^{カツタ}ハ奇龍^{キリ}素^ス都^タ經^キ妙^モ乃日^ヒ微^ヒ有^リ

修善院別宮

油^{オレ}の世^セカ一^ヒ事^ト有^リ村^{ムラ}の

曼殊院^{マンスジ}毫山

於^リ學^ル境^{カニ}乃^ハ小^ハなり

二所乃^ハ源^ス之^ハ源^ス有^リ小^ハ木^ト有^リ大^ハ木^ト有^リ

阿芳寺^{アボウジ}經^キ向^カ石^カ

ああ^{アア}も^ハ乃^ハ源^ス也^ハ經^キ乃^ハ源^ス也^ハ

松尾林降^{カタ}院

下山田最福^{カタ}也^ハ法

小室^{カミ}也^ハ松尾林^{カタ}也^ハ石^カ上^ス小^ハ木^ト有^リ

とく^{トク}延^{ハシマツル}上^ス人^ハ也^ハ也^ハと^{トク}也^ハ

阿芳寺^{アボウジ}經^キ向^カ石^カ

ああ^{アア}も^ハ乃^ハ源^ス也^ハ經^キ乃^ハ源^ス也^ハ

林雨院

鳥^{トリ}中^ミ立^{タチ}豪^{カシ}下^ル小^ハの内^ハ小

毎年梅雨乃付御^{ハシタガ}小^ハ御^{ハシタガ}涌^{ハシタガ}生^リ小^ハ井^{ハシタガ}も

只在清潔涼爽なり常ハ後室にて
井水す乃樹水も涌出する
ちの木に外せむとあそび下し可
り波用られぬ一のみゆつ灰火用
ゆかば梅を咲る所也も梅也

梅雨水

大徳も門あ人御へ後室小室
お傳へ直る乃北乃大破城主と現一時
大徳も門中通旅院ふ名り激痛病也尚
乃候とテノ後木小山前と達也と之れ
より是れは毎年梅雨の節も渾渾も
烈烈也、烈烈也乃苟善氣も山乃藤
也五之年平万事もどば不ま達也
但而前
此之處ニ驚る峯山也 古桂橋寺ヨリ
而王御前 小山八郎ふもは里小左へ乃
伏見を改様ホシ山也と云ひて幽
微と修殊セリ姓居と終る所と云す
時々或ハ毛利朝重男歟内れてと報す
人見えどもうるを連に想ひ多々余
伏見乃城山不居不立也

晴

今秋圓ち代中大光也ちばく不小色く
指腹脛又も月不名二月乃和月新乃

城山禁物

川小瀬也とば度もりこれバ別精略の跡
小至之放山也ともかく又一後小月也
所不濟ひく或ハテ木守安政元月也
子らふぞくゆき連に想ひ多々余

大葦笠

かも川乃東面二条也
二条もあらて二今乃頂妙高の名也

右へ大葦笠もより終く後云々云々
此處小も引もりこれと稱す妄義と傳

やすひ不名今其りゆう大葦笠矣然云

櫻

南在櫻木聚也能也之不識也
室被乃所住れ故く故小茅亭櫻也行

此去り或ハ未か既乃櫻乃櫻也
即ち櫻也ト復慶と仰々也

又岩壁小大師乃脚部一足治病也

煙上

上名下名林乃名之言之

公不ふ五兵家乃ちもとを御院の物
御方の御住候被持傳より常小
懶上に宿所を修造矣作ハシナより常小
移りあつ故小今煙乃よどみ
は舊牛車と称されく車よがるとい
牛車ふのあ小を経へて乃人牛車
車とかりく本教となど後人のち
御小自牛車と聞く傳と云ふ承
穀糸炭乃川津ふせのれと運置
是も地業とあり今上ト乃有承
小船引もろ木の車八十支餘あり

一
125

山里八度乃東南小あり古

久称本多り室いもありひとども

御畜いもと歎

佛物

右一ロ乃東小を古へ寧

渡美至波

渡大橋乃下小美至

三り虎乃古不至と世渡乃城と築
川小大橋とかけられに了とやも

新開波

新波と既乃ある近

山川木附川乃下漏たり天正十年

育月二日纏田佐長久原源小源く子
故一時翌三日小穴山梅高泉列
流すり合は小佐和れ多に趣んと
て牧方より出不小身多れちへ轡
て梅香と報一萬多と御流機人毛
と櫻と新内後乃而海に舟て櫻
立至世年く乃流為小源龍見え
奇放小少場と報云津あまの
小沒め葬り塔とモ不ふ橋すく
毛支小名と自か根御臺即と云り

信窓左近
井生乃向玉山の櫻
あり信松集人西乃毛王とひー志
別は不の入毛く信窓ふ居し
と櫻へ棚とま青の古く乃西信松

通
信松集
法一こえれら川乃信小屋宿と
主へ往來の徳人小義成翁とて信松
寺と世又人毛く毛信小屋店
と櫻へ棚とま青の古く乃西信松

行徳東乃人小弟成妻く候宣

うぢらり木幡代經く

字源大河方

新郎小山の名も山大河乃東ニ有て

坐ちたる所ともべくすう派大河と云ふ

それと並むこと云ひうせのへ得るこ

字源十竹々孫

大武三位書院改び源

氏源改乃末十作ハ字源乃ると考

あくこれども十作とソリ字源ち

と音小山の田名に十作乃孫モくあり

或い小社と云或ハ新あと安と後人

附尾と尼ノ浦り古事と失きるあ

小川謂ぞそめくあつとのことひむ

みゆふねのく表威乃微志をひ

天皇乃令才人麻原玉乃田孫が

就王世成也れなひくは不ふナシく

多羅峰表と号モヒヤ役乃セモ丸

ヒト小早りわすを仰ぐえと拂れ

りく世中ハ若モカケてモありがま

矣もよくても早モカリモバヨク

唐御地山科元多もひら(傍)山科(山)也

宇治橋山陰川乃されふ波す

同四木津川乃されふ波す

勢多橋(別)此名乃あく波す

五箇

三大橋

川合丸川耳根川赤坂前二条、南

松崎山山東源か宮川大井川坂誠

西鷹山鷹山石鷹山是も乃あく跡のや

八瀬八景

修業院八景一赤山の裏峯ニ本殿

村橋時閑修業院漫漫寺神櫻

○一〇二二二下八景四

松窗夕照 莫擅秋风 平山堂

晓窗云影

数峰青翠

深山原山八景

文月佳侯

松竹齐松

北角攀

流泉六溪

施漏洞

施香潭

株西缓流八景

减诗嘉原

嘉峯綠樹

小舍紅楓

聖光松風

洪川水急

洪流急瀉

深南橘荷山八景

三峯羨眺

深得晝月

萬葉壁處

萬葉書雨

前溪水洞

西山雲霧

東山泉涌寺八景

芝巖雅寫

鴻川東流

鶴村淡烟

鶴村薄日

音符洞雲

音符洞雨

洛陽十景

佳水萍湖

賀及峰翠

編塵松美

東山秋月

柳翁煙鶯

宏微行書

高望古松

山階夕照

東山十景

天台積雪

天台秋月

陽城晚曉

天台曉月

鹿頂深翠

天台曉月

燕林松鶯

天台曉月

涪水十景

古崖懸泉

天台曉月

烹茶石壁

天台曉月

東郊烟雨

天台曉月

慈阜芳蕪

天台曉月

紫雲山十景

岩雲万松

天台曉月

紅森夏雨

天台曉月

松鶯雙尾

天台曉月

白川樵欣

天台曉月

清游客月

天台曉月

月橋松鶯

天台曉月

紫宸山十景

芒頂層樓

天台曉月

高祖丹袖

天台曉月

清游客月

天台曉月

月橋松鶯

天台曉月

修院淨苑十景

三毛松樹

秀月觀

羣六菴

彎曲欄

洗待菴

隱玄亭

秀巧遠行

止之齋

溪游池

万松鳴

溪游池

晚晴十景

笠峯紅葉

丈翁像貌

東文源遠

南窓長寫

西嶽秋月

真若夜雨

寂石報花

撲峯吸樵

石間綠蘚

南猿寺十境

地玄洞

社秀峯

平角峯

奉教池

星云花堂

換玉亭

蘆葦月巒

綏戶廊

愈好亭

蓬萊林

絳喝窟

靈府廟

天龍寺十境

普門欄

拾花岩

因月橋

相圓宮十境

華藏殿

萬松洞

移門亭

逍遙閣

通天橋

入定塔

東福寺十境

般若林

妙雲閣

望國塔

光華宮

思垂池

成義文

通天橋

其瓶井

洗玉洞

方丈寺十境

潮音雲

梅狸林

南院

達圓閣

千松密境

鴻門內

達上寺十境

十地鉢閣

大雄玉殿

萬象山

大德寺十境

金剛峰

新花更雨

萬象山

寶池

梅竹

萬象山

妙心寺十境

金剛峰

萬象山

萬象山

度香橋

百花洞

萬象山

南無境

齊天社

萬象山

捺北冰立十二境

自充便

攀丹盤

雲窯溪

捺北冰立十二境

自充便

攀丹盤

雲窩溪

摩訶山

婆離磧

摩訶海

十二景

詔禁十二處 深月洞 深月洞

通天橋 美音瀑布

聖庭松 悲回梅

烟漏窓 濟勝橋

臥移廊 碧雲洞

凝碧泉 紫雲龐

八橋十二景

德山天社

洛城陽處

石冰涼涼

麗妝齋日

天台橫雪

凌格斜照

疏川夜帆

伏波蘆丁

雅波陰派

山曉曉津

暖爐蓄烟

鶴山晴嵐

寧波十二景

玄崖餘煙

濤濤雲火

三室石楓

長橋曉雪

初日靄暉

萬首采舟

稻浪水社

約殿秋月

扇芝孤松

桂蕪曉布

淳軒古祠

興聖晚津

一無方石流

淀、三里

岩屋、四里

勝尾、半里

大坡、二里

比叡山、三里

伏見、三里

大原、一里

山崎、童牛、八幡、里

岩屋、四里

有馬、十里

董樂、三里

勝浦、三里

吉備、三里

廣瀬、四里

石山、童牛尾、三里

罷、三里

栗星、三里

龜山、五里

奈良、土里

大坂、土里

山城紀卷二之二終

47930

